

## 平成18年度新技術士講習会レジュメ

日時：2007年3月9日13時30分～17時

場所 技術士会館葺手第2ビル5階AB会議室

参加者 1次試験合格者および2次試験合格者23名、部会員13名、招待者3名

平成18年度技術士1次試験合格者および2次試験合格者を対象に講習会を開催した。



- (1) はじめに林部会長より技術士（原子力・放射線部門）の発足、および部会設立経緯と状況説明の後、永田技術士会副会長より技術士試験合格の祝辞をいただいた。副会長ご自身が原子力や核融合技術開発に携わってきた経験を述べられた上で、公益確保を責務とする高い倫理と継続的な研鑽が技術士に対する一般社会の期待に応えることであることを訴えられた。また、原子力・放射線部会が技術士活動の核となり、益々発展することを期待するとのことであった。
- (2) 原子力・放射線部会幹事より以下の講習がなされた。（資料参照）  
浜崎幹事：技術士の必要条件と技術士登録方法  
園田幹事：継続研鑽と CPD 登録の重要性および APEC エンジニアの登録審査方法  
桑江幹事：原子力・放射線部会活動と技術士制度活用策、および技術士の使命について  
成川幹事：1次試験合格者を対象とした2次試験対策—体験を交えた受験に失敗しない方法と試験方法改定に伴う注意点および体験論文についての注意点
- (3) 試験合格者による自己紹介  
1次試験および2次試験合格者による、(a)現在の業務、(b)技術士活動・部会活動への要望と提言、(c)受験の動機と試験の感想、などを含めた自己紹介があった。北海道から参加された方や関西方面からの参加者も多く、地域的にもバラエティーに富んだ紹介がなされた。原子炉主任技術者等や学会との連携、PAへの積極的な関わり、技術士ネットワークへの参加など、興味深い提言がなされた。試験について

では大変だったとの意見が多く、今後試験制度改定では良い方向に向かうのではないかと意見があった。

(4) 成合氏および柴田氏両来賓による祝辞

時間の都合上、両来賓の祝辞が合格者自己紹介の後になった。

- (a) 成合原子力安全基盤機構理事長の祝辞—原子力・放射線部門設立を原子力学会長として関わったがその後順調に部門が着実に成長・発展しているのは喜ばしいことであり、学会としても原子力・放射線部門技術士を積極的に活用するよう提言を行っていきたい。また責任と権威を持った真の資格社会構築のためにも技術士資格を有効活用できることが必要であるとの激励を頂いた。
- (b) 柴田原子力機構特別研究員の祝辞—原子力・放射線部門設立に学術審議会から放射線の立場で関わった。原子力・放射線部門技術士が着実に増加していることは心強い。益々発展されることを望む。原子力・放射線には原子炉主任者や放射線取扱主任者等はどちらかという運轉・管理を主眼とする。今後増すであろう放射線施設の設計・建設や解体に伴う廃棄物も含めた安全評価に技術士を積極的に活用することが必要であり、また期待しているとの激励を頂いた。

(5) 番外（講習会後の懇親会）

参加者のほとんどが講習会後に近くの「串特急」で開かれた懇親会に参加し、柴田先生の乾杯の音頭で酒を片手に議論の続きを行った。

